



This is our **Communication on Progress** in implementing the principles of the **United Nations Global Compact** and supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.



Communication on Progress

2016年度報告

対象期間 : 2016年1月～2016年12月

原田鋼業株式会社

2017年1月24日

STEEL PRO

- 2-

◆トップステートメント



国連の提唱する人権、労働、環境および腐敗防止に関する普遍的原則である『国連グローバル・コンパクト』に、当社は2011年1月から参加しています。

社内外での積極的なCSR活動の取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

2017年1月24日

代表取締役社長

原田憲太郎

◆グローバル・コンパクト10原則



人権	企業は、 原則1： 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 原則2： 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
労働基準	企業は、 原則3： 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、 原則4： あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 原則5： 児童労働の実効的な廃止を支持し、 原則6： 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
環境	企業は、 原則7： 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、 原則8： 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、 原則9： 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
腐敗防止	企業は、 原則 10： 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

◆会社概要



会 社 名	原田鋼業株式会社
本 社	広島県福山市大門町 5 丁目 6-35 〒721-0926 TEL. 084-941-3111(代表) FAX. 084-941-1312
資 本 金	3,000 万円
創 業	昭和 20 年 10 月
設 立	昭和 41 年 8 月 6 日
年 商	46 億 6 千万円(50 期)
代 表 者	代表取締役会長 原田 弘人 代表取締役社長 原田 憲太郎
従業員数	110 名(グループ合計)
グループ	福山倉庫運輸株式会社 スチールプロ株式会社 有限会社クリーンライフ

◆2016年度活動の基本方針



国連グローバル・コンパクトへの支持を表明して6年目である本年度は、4分野すべてにおける実践的活動を目指すと共に、関連するステークホルダーへのグローバル・コンパクト支持の呼び掛け、及び10原則に沿った会社運営と社員の意識レベル向上を図る。

また、2011年度から取り組んできた「身近で誰もがができる活動」の幅を無理のない範囲で広げていくとともに、その活動そのものの定着を目指す。

◆人権分野に関する活動報告



本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
国籍、性別、障害者などに対する差別、偏見の排除	性別による偏見排除のない人事考課の基準作りと、能力、適性に応じた職務、役職、ポストへの適正配置の仕組作り	○	本年度は、女性昇進者が2名誕生。現在、課長職1名、係長職3名、主任職5名で、女性社員11名中9名が役職者として勤務。 総務部門、品質管理部門では、男女の区別なく、能力と適性に応じた形でリーダーシップ発揮による業務遂行が行われるようになった。	今後も継続して、性別による偏見のない人事に取り組むとともに、能力、適性に応じた職務、役職、ポストへの適正配置の仕組作りを目指す。
	採用試験内容に止まらず、面接等を含めた評価基準の設定と運用	○	昨年行った筆記試験、実技試験の標準化と複数の試験官による評価の導入により、評価基準の見直し等も行われるようになり、少しずつではあるが改善されつつある。	
世界の子供たちが安全で健やかに育つ環境づくり支援	マラリア撲滅運動への参加 エコキャップ運動への参加	○	僅かながらの支援であるが、毎年継続して募金活動を行うことができた。 参照:「その他の活動報告(世界の子供たちのために)」	今後も継続して、支援活動を行っていく。

◆労働分野に関する活動報告

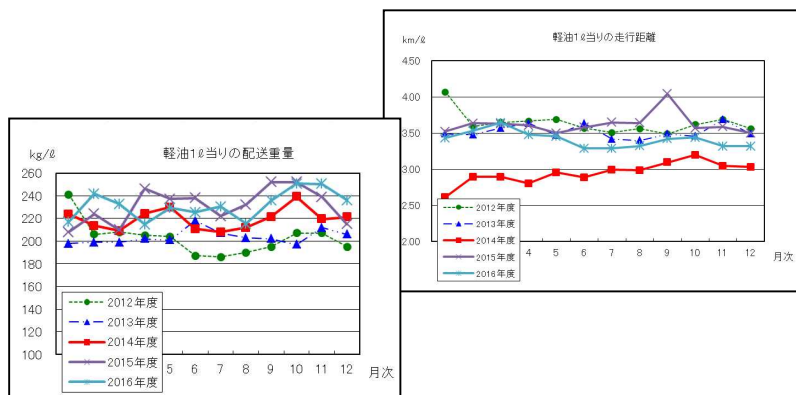


本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
役職、職能レベルの基準作りと教育の仕組み作り	個人別でのキャリア育成を目的とした長期的な教育の仕組み作り	△	キャリア育成を目指し、外部研修を含む技能講習等の受講を計画したが、仕事の都合で受講を断念する例もあり、満足できる成果を得ることはできなかった。	継続して、個人別でのキャリア育成を目的とした教育の仕組み作りとその効果的な運用を目指す。
従業員の多様性の尊重	経験と年齢に応じた働きやすい環境作りと遣り甲斐の持てる仕事の提供	○	60歳を超えた継続雇用者は、1名増の8名。現在、60歳代5名、70歳代3名となる。そして、最高齢の社員は77歳で、現在も現役としてご活躍中。	継続して、単に高齢者の雇用に止まらず、その経験と年齢に応じた働きやすい環境作りと遣り甲斐の持てる仕事の提供を目指す。
働きやすい環境の整備	子育て、介護に対する支援制度整備と運用の仕組み作り	○	昨年より、子育て支援の一環で、勤務時間帯の変更し、勤務している社員は、周りの社員の協力も得て、係長職として継続勤務中。	継続して、働きやすい環境作りとその効果的な運用を目指し、制度の周知とその活用を促していく。 特に、健康管理面では、メンタルヘルス対策にも力を入れ、その仕組み作りと効果的な運用を目指す。
	健康管理のための補助制度運用	○	本年度も、保険適用外であるインフルエンザ予防接種の費用補助として、半額を会社負担とした。グループ110人中20人が接種。継続して制度の周知を図る活動を進めていく。	
	職場環境に対する「社員相談窓口」の設置と改善着手	△	総務部で「相談窓口」を設置したものの、社員へのPRが不十分で活用されず、十分な成果を得ることはできなかった。業務上の問題点については、「自己チェック表」という様式を用いた自己評価の仕組みの中で、職場の問題点を上げてもらい、それに対処していくことで、職場環境の改善を進めていくことができた。	

◆環境分野に関する活動報告(その1)

本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
輸送効率の5%アップ	合い積み可能な配送先の確保と配送ルートの見直しで配送効率のアップ エコ運転の励行	△	2015年から始まったトレーラーの導入の影響と小口配送増加の影響もあり、燃料1ℓ当りの配送距離は昨年比6%ダウン、1ℓ当りの配送重量は昨年比1%アップの結果に終わった。	継続して、合い積み可能な配送先の確保と配送ルートの見直し等の改善を進め、配送効率の向上を目指す。
梱包資材のムダ削減とリサイクル	梱包用木材の回収率アップと再利用促進	△	梱包用木材のリサイクル活動も定着したためか、生産トン数当たりの木材消費量は横這い状態。	継続して、お客様への協力を呼びかけ、リサイクル促進を図るとともに、自社内でも廃材の有効活用を目指す。
	再利用時の選別基準明確化	○	用途、客先に応じた再利用時の選別基準も設定し、安全確保も図ることができた。	

＜輸送効率の5%アップ＞



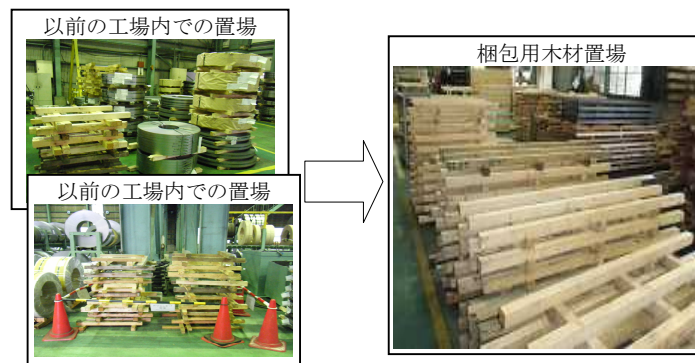
○合い積み配送の促進と配送ルートの見直し

営業努力もあって、総配送重量、合い積み配送も増えてきました。しかしながら、トレーラーの導入もあって、軽油1ℓ当りの走行距離は6%下がってしまいましたが、軽油1ℓ当りの配送重量は少しずつですが増えてきています。今後、トレーラーの増車により、この傾向は続くと思われますが、効率の良い配車計画を立てることで、トータルでの輸送効率アップを目指していきます。

○エコ運転の励行

添乗指導、タコグラフでのチェックなどの個別指導に加え、輸送会議の中での啓蒙活動も定例化しています。

＜梱包用木材のリサイクル＞



○梱包用木材のリサイクル

以前は、使用する工場内での保管を行っていましたが、再利用回数、回収量の増加に伴い、今年度からは工場内一か所での保管に変更しました。使用する木材のみを作業する工場に移動させることで、製品置場、作業スペースの確保に繋がり、安全性も向上しています。

使用不可能な木材の選別、明示の実施など、使用可能な木材へのダメージを減らす活動を行い、使用回数の増加を目指します。

◆環境分野に関する活動報告(その2)

本年度の活動目標・内容		結果と評価	来年度の活動目標・内容
工場全体としての生産効率向上と無駄なエネルギー消費削減で省エネ工場実現	クールビズ、ウォームビズ 無駄な照明、待機電力等の削減	○ 日常業務の中での電力削減活動は定着。老朽化した電気機器の省エネタイプへの更新も進めており、消費電力の削減に寄与している。	今後も継続して、省エネ活動、生産効率向上活動を進め、省エネ工場実現を目指す。
	第7工場への生産集約と作業効率改善で加工重量当たりの消費電力25%の削減	○ 新レベラーラインの導入により、古い設備の廃棄と新工場への生産集約が進み、加工重量当たりの消費電力は当初の目標以上の成果を得ることができた。	

無駄な電力の削減



○クールビズ(26℃)、&ウォームビズ(22℃)

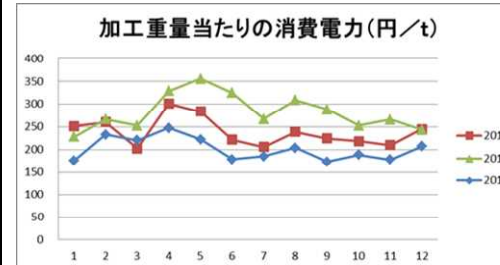
クールビズ、ウォームビズ活動はすっかり定着。

事務所では、エアコンの温度設定は当然として、扉の開閉、ブラインドによる太陽光の調整等での冷暖房効果を高める活動。工場では、夏の西日による温度上昇を和らげるため、窓への遮光フィルム貼り付けも完了しました。

○無駄な電力削減

休憩中の照明、装置類の電源OFF活動、パソコンやテレビ等の待機電力削減の活動も継続して実施。僅かですが電力削減に寄与しています。

<省エネを目指した工場>



○7工場の省エネ化

2014年に、省エネを目的とした様々な工夫を凝らした第7工場建設と最新鋭のスリッターラインの導入が行われました。

2016年には、最新鋭のレベラーラインの導入並びにトップランナー基準の受電設備の稼働開始等、生産設備に関する設備投資も一段落したところです。

日常の改善活動の成果もあって、単位加工重量当たりの消費電力も、

2014年 278 円/t、2015年 236 円/t、2016年 200 円/t

と、2014年比で 28%の電力削減を果たすことができました。

2017年には第7工場の増築と共に、太陽光発電の導入も検討しており、更なる省エネ工場を目指しています。

◆腐敗防止分野に関する活動報告



本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
官公庁等の入札に関する談合への関与禁止	入札への積極的参加の姿勢を示すことにより、業界内での不当な価格操作を排除	○	件数は少ないものの、入札物件に対する直接応札を行うことで、当社の姿勢を業界内に周知させることはできた。	継続して、この活動を進めることで、談合等の腐敗防止を目指す。
得意先や仕入先との適切な関係	仕入先への情報提供と協議の場を設けることで、健全なサプライ・チェーン構築	○	苦情、クレーム等を含む顧客要求について、仕入先、外注先との情報共有を図るとともに、意見交換の場としての定例会議を開催した。この結果、効果的かつ迅速な顧客対応を取ることができた。	継続して、仕入先への情報提供と協議の場を設けることで、健全なサプライ・チェーン構築を目指す。
	交際費等の明確化による社内自浄活動の推進	○	以前からあった事前申請の仕組みを徹底させることで、社員への意識付けには役立った。	継続して、啓蒙活動を行うことで、強要や贈収賄の発生しない土壌を維持していく。

◆その他の活動報告(地域貢献を目指して:その1)

イベント

福山城写生大会後援



受付風景



写生風景



表彰式



当社の会長が代表を務める「明るい福山を考える会」の主催する「福山城写生大会」も、今年で第11回を迎えました。

今年は晴天に恵まれ、たくさん子どもたちが参加してくれました。

真剣な目つきで絵を描く姿や、描き終えて元気いっぱいの笑顔で走りまわる姿など、子どもたちのたくさんの表情に触れ、温かい空気の中行れた大会となりました。

福山ばら祭への協賛



好天に恵まれて



5千本を超えるバラが咲き誇る公園で行われる「福山ばら祭り」は、市民が集い楽しむ福山市最大のイベントとなっています。

2016年は、福山市の市制施行100周年にあたり、例年以上に盛りだくさんのイベントが行われました。

当社も、地元企業として協賛させていただいております。

公園の環境保全

定例の花見

満開の公園



開宴



ほろ酔い気分で



ライトアップされた桜



緊張の新入社員



仲富池桜公園は、当社の本社所在地である福山市大門町にある公園で、桜の名所となっています。桜が咲き始めると散歩やお花見を楽しむ方も多くいらっしゃいます。

この桜は、当社の初代会長、原田靖夫が、地元の方々に喜んでいただければと、ため池の周りに桜の木を植えていったのが始まりです。現在では、その時の木々も老木と呼ぶに相応しいものになっています。

当社では、この初代会長の意思を尊重し、地元の皆様に愛される公園造りの一助となればとの思いから、剪定作業や植樹など、できる範囲でのお手伝いを続けております。

今年の花見は、夕方から夜にかけての開催となり、少し寒さを感じましたが、満開の夜桜は美しく、例年にはない盛り上がりとなりました。

◆その他の活動報告(地域貢献を目指して:その2)



スポーツ活動

<卓球部>

日本卓球リーグ2部優勝

後期日本卓球リーグでの優勝



前期ホームマッチ



優秀ペア賞



地元の方も熱心に応援



新人賞



さあ、試合開始



ダブルス戦



前期日本卓球リーグでは1部でのスタートとなりましたが、力及ばず、2部に降格。その後、2部で迎えた後期リーグでは、7勝1敗と苦しみながらもなんとか優勝。併せ、新人賞と優秀ペア賞を獲得しました。

来年の前期大会は、再び1部での戦いです。

1部では、リーグ戦7試合の内、1試合を地元福山で開催することができます。

このホームマッチは毎年恒例のようになっており、地域の愛好家や学生達も楽しみにしておられます。2016年5月に行われたホームマッチでは、227名もの大勢の方が試合会場に来ていただきました。

残念ながら、一部の壁は厚く、今までホームマッチで勝利したことがありません。2017年こそは、地元の方にチームが勝利するところを見て頂けるよう、部員一丸となって練習に励んでいます。

<フットボールクラブ>

広島県リーグ優勝



本社のある大門地区出身者を募ったことから始まったチームです。地域とのコミュニケーションを目的に結成されましたが、現在では、広島県社会人リーグで優勝するチームにまで成長しました。

今年は広島県の代表として、中国リーグの入れ替え戦に挑戦しましたが、惜しくも敗れました。

来年は更なる飛躍を目指し、地域の方とともに戦っていきます。

<剣道倶楽部>

広島県実業団剣道大会個人戦優勝

広島県実業団剣道大会にて



今年は部員が2名増え、6名で活動中。昨年に続き、広島県実業団剣道大会個人戦で優勝することができました。

社内での稽古に加え、地域の方との合同稽古に日々汗を流しています。

子どもたちへの指導や、子ども達の試合の審判など、地域に根付いた活動をしています。

◆その他の活動報告(地域貢献を目指して:その3)

スポーツ活動を通しての地域交流

<庄原市レベルアップスポーツ教室>

こんなに大勢の人が



講習会閉会式



教える方も緊張!



なかなか・・・



その調子!



今年は、広島県庄原市から、当社の卓球部へ講習会の依頼があり、監督と選手5名で行ってきました。

当日は、小学1年生から社会人の方までを対象とし70名余りの方に集まっていただき、一緒にボールを打ち交流を深めることができました。

初めてラケットに触る方や、中には卓球歴10年以上といった経験者の方など、様々なレベルの方に分かりやすく伝える為、講師として参加した当社の選手も勉強になったようです。

午前2時間、午後3時間と短い時間でしたが、参加頂いた方も選手もすっかり打ち解け、サインを求められたり一緒に写真を撮ったりと充実した時間を過ごすことができました。

<地元小学生のサッカーチーム支援>

地元チームの子供たち



走り回る子供達



試合では鬼コーチ?



夕方、学校の校庭で



フットボールクラブも卓球部に負けていません。

地元小学生のサッカーチームの指導を毎週行っています。

冬になると夕方6時は真っ暗。小学校のグラウンドの照明をつけて、子供たちと走り回っています。

社員の中には、チームの中に自分の子供がいる人もいて、何となく気恥ずかしいのか、なかなか写真には写ってくれませんでした。

◆その他の活動報告(世界の子供たちのために)

マラリア撲滅運動への参加 「JCI Nothing But Nets キャンペーン」



本社



大阪支店



東京支店

国際青年会議所と国連基金との共同事業の一つである「JCI Nothing But Nets キャンペーン」に、当社も参加しています。

写真のような自動販売機で飲料を買うと一定金額が寄付され、殺虫剤処理された蚊帳がアフリカに送られるという仕組みです。

2012年3月より、この自動販売機を本社、大阪支店、東京支店の3箇所に設置しました。

社員や近隣の方の協力もあり、義援金も 2012 年は 33,796 円、2013 年は 52,913 円、2014 年は 57,254 円、2015 年は 57,492 円、2016 年は 59,577 円と、継続して寄付することができました。

エコキャップ運動への参加



事務所で



イベント会場で



家庭で集めて

2012年から始めたばかりのエコキャップ運動ですが、本社及び各支店に回収 BOX を常設するとともに、会社のイベント等では会場に回収 BOX を設置。来訪された方々へも協力の呼び掛けを行って参りました。

最近では、わざわざ当社にキャップを持って来てくださる方も増えてきました。

皆様のお蔭で、2012 年は約 2,800 個、2013 年は約 3,500 個、2014 年は約 3,800 個、2015 年は約 3,900 個、2016 年は約 4,500 個と徐々にではありますが、集まる数も増えています。